

久斗山地区公民館だより



令和4年
1月号

27日発行

久斗山地区公民館

【ご挨拶】 新年明けましておめでとうございます。年越し寒波で、元旦の朝は少し積雪がありましたが、比較的穏やかな新年を迎えることができました。今年は十二支の寅年、『寅』の漢字には「まっすぐに伸ばす、ひっぱる」という意味があり、「寅年は春が来て根や茎が生じて成長する時期、草木が伸び始める状態」だとされており、何かを始めた人はそれを発展させ将来に向けて大きく伸ばしていく年だということです。寅年生まれの人はチャレンジ精神が強く、新たな事に挑む前向きな性格が多いそうです。動物の虎はネコ科の猛獣、物怖じしない獰猛さがあります。今年は、皆さんの大いなる発展を期待します。

【謹賀新年、雪の朝】 現在の当地区の世帯数は久斗山:44戸（人口120人）境:12戸（人口28人）です。5年前と比べ、世帯数は大きく変わりありませんが人口は1割以上減少し、高齢化も進んでいます。子供や若者は少なく、少し元気が無いように感じますが、「住めば都」、自然豊かなとてもいい村です。令和4年の正月は積雪が30cmほどありました。近年は暖冬で積雪も少ないですが、町内でも特に雪深い地域です。でも、そのおかげで標高が低くてもブナが生えています。



今年の元旦は曇りでしたが、2日は晴れていい天気になりました。大杉神社から望む久斗山の村とブナの木(1月2日)

【冷たくてもへっちゃら！楽しく雪遊び】

22日(土)午後、久斗山自然教室「かまくら作りと雪遊び」を開催しました。17人(大人7人、子ども10人)の参加がありました。積雪は30cmほど、できればもう少し多くても良かったけど、思ったほど雪が降りませんでした。開会式のあと、まだだれも足跡をつけていない真っ白なグラウンドに、みんないっせいに踏み込んでいきました。スコップで雪を積みあげ、かまくらを作ったり、雪を大きく丸めて二つを重ね、葉っぱ

や木の実で顔をつくって雪だるまができました。そのうち雪玉で雪合戦が始まりました。炭火で焼いた久斗山特産の栃餅が入ったぜんざいが出来上がり、一時休憩タイム。お餅と一緒にサツマイモや里芋も焼けており、美味しくおやつをいただきました。休憩の後は、再びかまくら作り開始。雪合戦も再会し、ソリを使ってうまく身を隠して応戦してました。ソリで滑るコースも完成し、二人一緒に仲良く乗って滑ったりして嬉しそうでした。まだ遊び足りない様子でしたが、とりあえず3時半に終了、片づけをして閉会にしました。短い時間でしたが、好きなだけ雪と戯れることができ、みんな本当に楽しそうでした。久しぶりに小学校のグラウンドに子どもの歓声が戻った一時でした。



